

■順徳天皇 84代天皇。後鳥羽天皇の第3皇子。〈承久の乱〉の結果、佐渡に配流され、21年過ごして、没した。

じゅんとくてんのう

・・・・・・1197＝ 生。後鳥羽天皇の第3皇子。母は贈左大臣高倉範季の女重子(修明門院)。

源頼朝没・・・・1199＝ 2歳：親王となり、

梶原景時征討1200＝ 3歳：兄土御門天皇の皇太弟となった。皇太弟博には内大臣源通親が任ぜられた。

執権政治始・1203＝ 6歳：

モンゴル帝国・ 1206＝ 9歳：

・・・・・・1208＝11歳：元服。

・・・・・・1209＝12歳：故摂政九条良経の女立子(東一条院)を東宮御息所とした。鷹揚な性格の土御門天皇に対し、順徳天皇は才気に富み、活発な人柄であった。父の後鳥羽上皇は、このような順徳天皇を愛し、

・・・・・・1210＝13歳：*土御門天皇に命じ、順徳に譲位させた。順徳天皇の踐柞にともない、御息所立子は女御となり、

・・・・・・1211＝14歳：中宮となった。日記始。

北条頼権確立1213＝16歳：

順徳天皇は後鳥羽天皇や藤原定家の指導を受け、歌道にすぐれ、

荣西没・・・・1215＝18歳：11人の歌人に名所百首を詠進させ、

・・・・・・1217＝20歳：15人の廷臣を集めて四十番歌合を主催している。

・・・・・・1218＝21歳：中宮との間に皇子懷成が生れ、皇太子に立てられた。

承久の乱・・・・1221＝24歳：在位十年余ののち、

*皇太子懷成親王(仲恭天皇)に譲位したが、これは後鳥羽上皇の鎌倉幕府打倒の計画を助けるためで、後鳥羽上皇は幕府打倒の兵を挙げ、承久の乱が起こり、上皇方は幕府軍に敗北した。幕府は仲恭天皇を退位させて後堀河天皇を立て、後鳥羽・土御門・順徳の3上皇を配流した。順徳上皇も佐渡に遷された。日記「順徳院御記」終わる。この頃有職故実書「禁秘抄」が成立。歌論書「八雲御抄」も草稿が成り、

親鸞真宗始・1224＝27歳：

北条政子没・1225＝28歳：

以後、佐渡で改訂される。

御成敗式目・1232＝35歳：

・・・・・・1233＝36歳：

・・・・・・1235＝38歳：中宮の弟の前関白九条道家を中心に後鳥羽・順徳両上皇の還京を求める運動が起ったが、幕府は峻拒。

北条泰時没・1242＝45歳：四条天皇(後堀河天皇の皇子)が没したが嗣子がなかったため、土御門上皇の皇子邦仁王と順徳上皇の皇子忠成王とが皇嗣の候補者となった。朝廷では九条道家をはじめ、順徳の皇子を支持する勢力の方が優勢であったが、幕府は承久の乱の際、討幕に積極的であった順徳上皇系の踐詐に反対し、土御門上皇の皇子を踐柞させた。すなわち後嵯峨天皇である。21年間を佐渡で過した順徳上皇は同地で没した。「順徳院御集」「順徳院御百首」などの歌集があり、その詠歌は「続後撰集」以下の勅撰集に収められている。